

2024年度 事業計画

A 職 員 人 事

1 2024年度教職員名簿

◇校 長(1名)(兼務健康管理医1名) 黒 岩 敏 彦					
◇常務理事(1名) 豊 福 淳 之					
◇事 務 所 事務局長(1名) 磯 田 典 子					
事務職員(若干名)					
事務課長	衣 川 美 佳	学生・施設管理担当	西 村 梢		
教務担当	生 沢 好	学生・庶務担当	川 上 夏 菜		
教務担当	山 内 奈津子	経理担当	小 泉 恵		
◇看 護 学 科 副校長(1名) 谷本 千亜紀					
教務部長(1名) 谷本 千亜紀(兼務)					
実習調整者1名／専任教員8名以上					
<三 年 課 程>					
教務主任	姫 田 真 弓	教 員	岡 田 萌 美	実習調整者	大 井 ゆかり
教 員	鍋 島 純 子	教 員	橋 本 千 晶		
教 員	長 岡 宏 子	教 員	福 田 裕里加		
教 員	川 勝 真由美	教 員	北 澤 小夕里		
教 員	大 瀧 奈 緒				
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 副校長(1名)					
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 教務部長(1名) 泉 田 洋 志					
<第一臨床検査学科>		<第二臨床検査学科>		<臨床工学技士専攻科>	
教務主任 (1名)	宮 井 優	教務主任 (1名)	五十川 團 哉	教務主任 (1名)	泉 田 洋 志 (兼務)
(教員は2学科を兼務)(7名以上)				(3名以上)	
教 員	林 敬 子	教 員		教 員	飯 田 安 彦
教 員	小 西 靖 志	教 員		教 員	古 谷 仁 志
教 員	多 田 俊 介	教 員		教 員	和 泉 大 輝
教 員	篠 田 英 邦				
教 員	藤 田 拓 司				
教 員	徳 野 治				

2 各種委員会担当者一覧

委 員 会 名	看護学科 三年課程	臨床検査学科	臨床工学技士 専攻科	事務所
防火委員会	長 岡	小 西	泉 田	山 内
新聞委員会	大 井	小 西	飯 田	*磯 田 川 上
学校祭準備委員会	*岡 田	古 谷	和 泉	西 村
体育祭委員会	福 田	*篠 田		生 沢
まちの保健室委員会	*大 井	林		衣 川
福利厚生委員会	橋 本	多 田	和 泉	*小 泉

(注) *印は委員長

B 学生在籍状況及び担任一覧

区 分	学年/期生	在籍数	教室番号	担 任	
看護学科三年課程	1年/46期	38	302	長 岡	福田・北澤
	2年/45期	41	305	川 勝	岡田
	3年/44期	38	303	鍋 島	大瀧・橋本
	計	117			
第一臨床検査学科	1年/52期	26	101	多 田	宮井・篠田
	2年/51期	28	102	古 谷	林
	3年/50期	36	103	宮 井	
	計	90			
第二臨床検査学科	1年/52期	12	101	五十川	
	2年/51期	14	102	古 谷	
	3年/50期	7	201	小 西	
	4年/49期	25	202	林	
	計	58			
臨床工学技士専攻科	27期	15	203	飯 田	
合 計		280			

1 教育実践計画

【教育目的】

人々の健康を高め、命とくらしを守るために、看護の本質を追求し、変化し続けられる看護実践者の育成を目的とする

【ディプロマ・ポリシー】

1. 人間を理解し、対象の生命とくらしを尊重し支えることができる
2. 根拠に基づき、対象に応じた看護を実践できる
3. 専門職業人として、自ら看護を継続的に追求できる
4. チームの一員として自己と多職種の役割を理解し協働できる
5. 保健・医療・福祉のニーズを理解し、自己の役割と責任を理解できる

【計画】 教育目的が達成できるよう新カリキュラムの具体的運用を検討し実践していく。

- 1) 活用できる知識の定着を促し、入学してきた学生を大切に育て国家試験合格へつなげる
 - ・1 年次から学習の動機づけを行い、学生が学習方法を身につけ主体的に学習できるよう、全教員で指導方法を検討・実践・評価する（入学前学習の変更、1 年次記憶アプリの導入、4 月に 3 学年合同国試ガイダンス）
- 2) 学生の学びを促進する教育方法を身につけ、一貫性のある教育を提供する
 - ・実習指導に一貫性を持ち、学生が課題を自ら解決していけるよう支援をする **重点**
指導困難事例検討を行う
- 3) 看護職をめざす受験生の獲得をする
 - ・PR 活動に積極的に参加し、他学科を含めた本校の魅力をアピールする
 - ・受験生の動向や入学試験結果を分析し、入学試験の課題を明らかにし改善する

臨床検査学科

本校の学生は、「医療に携わりたい」、「患者の役に立ちたい」という気持ちを強く持って入学してくる。その思いに応えるべく、臨床検査学という専門的な知識と技術の習得と、医療人としての心を教育し、社会に役立つ臨床検査技師を育成する。また、臨床検査に関わる検査機器やA I 技術が進歩する中、チーム医療に積極的に参加し、現場で活躍できる臨床検査技師教育を行う。

学生募集の観点では、少子化が進む中、臨床検査技師養成大学の設立が京都・大阪でも進み、本科の入学生確保は大変困難な時代に入った。今までと同じことをしては学科・学校運営が危ういことを職員全員が理解し、各学科・各教職員が協同行動をとれるよう努力する。

「心豊かな医療人の育成」

1 学科教育方針

「知識、技術、心の調和のとれた教育を実践する」

2 学科教育目標

- ① 臨床検査技師国家試験の合格に十分な基礎学力を養う
- ② 医療に貢献できる技術を養う
- ③ 医療人として備えるべき心と態度を養う

3 具体的教育目標と行動

【第一臨床検査学科・第二臨床検査学科】

- ① 知識・技術の定着を図るため、学生個々に iPad を所有させ、多彩な学習資料を提供する
- ② チーム医療を意識し、グループワークを取り入れた教育を行う
- ③ 教育の重点項目は心電図検査・超音波検査・輸血検査・検査データの解釈とする
- ④ 臨床検査技師に必要な医用工学の基礎知識を教育し、また、臨床工学技士とのダブルライセンスを目指す学生には、第2種ME技術実力検定試験合格に向けた補講を行う
- ⑤ 臨床検査技師と細胞検査士とのダブルライセンスを目指す学生への支援を行う
- ⑥ 医療人として備えるべき常識や心を養える教養科目や特別講義、学外学習を計画する
- ⑦ 第二臨床検査学科3年制実現に向け準備を進める

4 学生募集活動

- ① 京都・滋賀・奈良を中心に高校訪問と会場形式進路相談会に参加する
- ② 参加者の満足度が高いオープンスクールを模索し開催する
- ③ 夜間部教育の存在を高校進路部、就職担当者へ紹介する
- ④ 本校看護学科受験生の第二志望として臨床検査学科受験を受け入れる
- ⑤ 学科の広報活動に力を入れ、ホームページやSNSを充実させる

臨床工学技士専攻科

近年、医療機器の多様化・高度化に伴い、その操作や管理業務に必要とされる知識・技術の専門性が高まっている。そして医療技術の発展とともに、臨床工学技士の業務内容はますます充実し、需要も増加する傾向が見られる。当科ではこのことを踏まえ、高い専門的な知識や技術を習得し、臨床の現場で活躍できる医療人の育成を目標とする。

1 教育方針

医療資格養成校出身者と理工学系大学出身者の特徴を尊重し、各々の専門性を活かしながらキャリア形成ができる環境を提供し、チーム医療に貢献できる人材育成に努める。

2 教育目標

- 1) 基礎学力をしっかりと固めてから専門知識を習得して国家試験合格を目指す。
- 2) チーム医療の重要性を理解させ、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 3) 医療や社会的情勢に興味・関心をもたせ、探究心を育む。

3 教育計画

- 1) 臨床工学技士として必要な医療・工学科目の基礎を理解させる。
併せて医療現場における役割や業務の概要を学ばせる。
- 2) 臨床実習で実際の業務を学び、臨床工学技士としての心構えを身に付けさせる。
- 3) 第2種ME技術実力検定試験を受験して医療機器の知識や技術の向上を図る。
- 4) 国家試験対策の学習指導を行う。

4 学生募集

- 1) 指定校（崇城大学）との連携体制の充実
大学4年次に本校で1年間学び、大学卒業（本校卒業）と同時に臨床工学技士免許取得を可能としたダブルスクールによる連携教育であり、長期的な定員確保に向けて取り組んでいく。連携教育
9年目となる今年度もより多くの学生を受け入れるために募集活動とあわせて教育内容の充実を図る。
- 2) 大学・専門学校訪問による募集活動
理工系大学や他の医療系養成校への訪問等により受験者数増加を図る。
- 3) 内部進学希望者の増加に向けての活動
内部進学希望者を対象とした学内オープンスクールやクラス毎の学科説明会を実施して、より多くの学生への周知を図る。臨床工学技士の業務と他職種との連携の理解を深め、ダブルライセンス取得やスキルアップの向上を目指しながら、医療人としての進路選択が広がることを伝えていく。

事 務 局

学校目標の「実践力ある医療人の育成」を意識して、事務局の運営をしていきたい。

学生募集が大変厳しい状況である為、新たにSNSなどの情報源を利用した募集活動等の改革に取り組み、学生確保に力を入れたい。

1. 学生生活への支援

学生生活の中で、日本学生支援機構奨学金や京都府看護師等修学資金、専門実践教育訓練給付金などの事務手続きにおいて学生個々に丁寧な実施支援を行う。

また、学生相談室におけるカウンセリングについて運営し、臨床心理士の吉田先生と連絡を取り合いスケジュールの調整や変更を行い、学生へのお知らせなどの支援を行う。

2. 学生募集関係

学校案内と学生募集要項の更新

2026年度生の募集活動については、学校案内と学生募集要項の変更事項に対応しながら作成を行う。広報担当者を新たに置き、学校案内・募集要項の作成やスピーディーなホームページの更新に力を入れたい。新たにSNSなどの情報源を利用した募集活動等にも力を入れていきたい。また高校指定校や業者主催の説明会にも出向き教員のサポートを行う。

早期よりできる事に取り組み、学生募集活動に力を入れていく。

3. 財政の健全な運営

今年度は入学生が全学科で激減し、退学者も増加する中、在校生の数が益々減少している。より一層収入面で非常に苦しい状態となる。支出面を抑えながら、今後の経営状態を見通し、学科の運営をどうするのか見極められるようデーターを分析し、実行しなければならない。

4. 未来プロジェクト

今後の学校あり方検討会が発足し、現在未来プロジェクトとして実施している。事務局は全体のまとめ役を担い、若手の先生を交え会議を行い、意見の集約や議事録の作成を行う。